

《卒業研究、ケアスタディ発表会—コンセプト》

社会にアプローチできる研究テーマへチャレンジし、そのプロセス、プレゼンテーションを通じて自己のスキルアップが図れるのだ。

1. 時代に即した、将来に向けた研究テーマであること
2. 修得した専門知識と技術の集大成であること
3. 「コラボレイト」により、関連知識の幅を広げ、汎用性・応用性を身に付けること
⇒「付加価値」・「高付加価値」に繋げる
4. グループ研究であること—グループ内のインターフェイス(ケアスタディ発表会は個人)
5. 「プレゼンテーション」、「コミュニケーション」、「ドキュメント」等の技法をマスターし、アピールする手法を身に付けること
6. 「企画書」、「スケジュール進捗状況管理表」等を作成し、与えられた時間内で完成する計画的な研究を目指すこと
7. 「100%の完成度」にもっていくこと
8. 「実証実験」による研究発表とすること
9. 発表の際には、資料を読むのではなく、自分のプレゼンをする
10. プレゼンの中に、「研究の中で一番試行錯誤した点」や「それが将来どのような分野で、どういう形で役立っていくか」をマトメの中に含み、可能なら「継続研究」につなげる

○発表会御参加講師（順不同）



Ⅲ「卒業研究・ゼミナール成果発表会」
「ケアスタディ発表会」を終えて

教頭・教育部長 有賀 浩

＜電子情報：企業対象卒業研究・ゼミナール活動発表会＞

○発表会御参加講師（順不同）

- ・SSB ソリューション株式会社 専務取締役
(本学学校関係者評価委員) 池谷 和彦 様
- ・株式会社システムソフィア 管理部長
(本学教育課程編成委員) 五十嵐 卓 様
- ・有限会社ランドスケープ 代表取締役社長
(本学学校関係者評価委員) 磯田 浩 様
- ・バックル 代表 (3DCG、映像制作)
(本学卒業生) 落合 布暁 様
- ・モノリズム合同会社 代表
(本学教育課程編成委員・卒業生) 保坂 昇秀 様
- ・株式会社静岡情報処理センター 医療システム事業部
(本学学校関係者委員) 知又 史郎 様

○発表テーマと学生メンバー

＜1＞「プロジェクトマップ制作」(プロゼミ成果発表)

植田 和華、川越 麻未、渡邊 千晶 (映像・音響デザイン学科1年)

＜2＞「魅せる ～販売を支えるデザインの力～」(プロゼミ成果発表)

※産学連携先 有限会社スルガエンタープライズ 様

氏原 史絵、黒田 ひかり、櫻井 翼、細田 侑里

(映像・音響デザイン学科1年)

＜3＞「シューティングゲーム制作」 (プロゼミ成果発表)

大石 真也、鈴木 祥高 (ゲーム応用学科1年)、

土方 真樹、水野 健大 (ロボット創造学科1年)

渡辺 千晶 (映像・音響デザイン学科1年)

＜4＞「(産学連携による)日本平プロモーション用 Music Video 制作」

(卒業研究発表)

※産学連携先：株式会社静岡体験企画 様

池谷 憲信、高山 翔、萩原 有右斗、宮内 真聖、山田 真由

(ICT映像・音響デザイン学科2年)

＜5＞「音声によるPC操作システムの設計・開発」(卒業研究発表)

川崎 友樹、北 憲明、高橋 卓也 (ICT情報システム学科2年)

村林 萌花 (ICT映像・音響デザイン学科2年)

○ご出席頂いた企業の方々からの各グループに対するコメント

[一部抜粋]

＜1＞

- ・改良の過程がわかりやすく、その成果も素晴らしかった。
- ・映像がとても丁寧に作り込まれていて感心した。
- ・人間の視野に合わせた16:9のアスペクト比で制作すると、更に良くなる。
- ・制作過程の解説が秀逸だ。企業側としても大変参考になった。

＜2＞

- ・先輩から引き継いでの活動、大変感心した。
- ・自分の言葉でプレゼンできていて、聞きやすかった。
- ・自作のイラストが素敵。とてもかわいい。
- ・ウェブサイトがとてもわかりやすくデザインされている。更に情報量を増やしてほしい。

＜3＞

- ・改良のステップがわかりやすい。技術が向上していく様子がよくわかった。
- ・応用性の高いスキルを身につけているところが良い。
- ・メンバーが相互にどンドンぶつかり合い、内容を濃くしていけばよい。
- ・ゲームの基礎部分を自力で作れるよう、技術レベルを向上してほしい。

＜4＞

- ・長編でとても素晴らしい力作です。感動しました。
- ・プレゼン用の映像自体も完成度が非常に高い。面白く拝見した。



- ・ボカルの音像をもっと前に出すと更によく。
- ・映像制作システムをうまく活用できている。
- <5>
- ・学生の開発レベルを超えているように思った。
- ・プレゼンの画像、センスがとても良い。
- ・開発したシステムの評価方法が的確だ。
- ・質疑応答も非常に良かった。後輩に引き継がれるとのこと、今後に期待できる内容だ。



日本平を元気に！プロモーションMVプロジェクト
「Japaneseぺったんこ」

ICT映像・音響デザイン学科 2年 宮内 真聖

私たち2IDは、今回、(株)おおか体験企画様からの依頼で、日本平及びその周辺観光地区のPRをテーマとした、プロモーション・ミュージックビデオ「Japaneseぺったんこ」の制作に取り組みました。

プロジェクトは、依頼先とのミーティングからスタートし、「ロケ下見→絵コンテ制作→ロケ→楽曲レコーディング→編集→作品レビュー→改善→再編集→完成」という工程で進行しました。ロケ先も10か所以上あり、「限られた期間との戦い」がとても大変でした。また、日本平地区内での「回遊性」、他地区の観光スポットとの回遊性を、ターゲット層向けに「ストーリー構成」するかに、悪戦苦闘しました。

最終的には、依頼先にとっても喜んでいただける作品に仕上がりに、大変満足しています。また、チームメンバーの絆も深まり、2年間の集大成としてとても良い経験が出来ました。

協力して下さった皆様、全てに感謝です。この経験を社会に出るから大いに活かしていきたいと思っています。

見出した「音声認識の可能性」を、後輩に託す

ICT映像・音響デザイン学科 2年 村林 萌花

私たちは、「音声認識」を利用してパソコンを操作するアプリ『Ca-Task』の開発に取り組みました。

開始当初は、「ビジネスでパソコンを利用している方の作業効率を上げる」という目標で開発を進めていました。しかし、プロジェクトが進行する中で、「手が不自由な人が、パソコンを操作できる」、「IoTと連動して、家事の並列化や効率化ができる」や、「声紋認証ができる」など、次第に音声認識の可能性を広く考えるようになりました。

このため、このアプリをより良いものにすると同時に、音声認識の可能性を活かすフィールドを広く探索するため、私たちのプロジェクトを1年生に引き継ぎました。後輩たちには、いろいろなビジネス・生活シーンを想定してこの技術の活用を考え、そして、試行錯誤を繰り返して、社会に役立つ成果物を作り上げてほしいと願っ

ています。



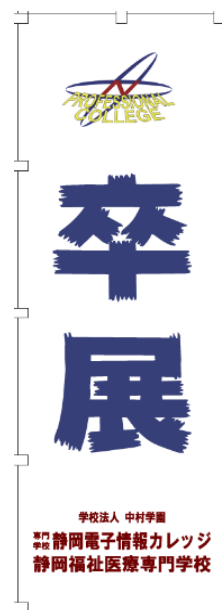
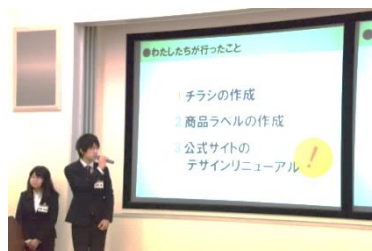
企業と顧客を繋ぐデザインに挑戦
—ゼミナール活動報告—

映像・音響デザイン学科 1年 櫻井 翼

今年度後半、私たちは先輩から、地元企業の販売促進プロジェクトを引き継ぎました。有限会社スルガエンタープライズ様(島田市。カツオエキス使用の有機肥料を販売)の売上増大が、プロジェクトのミッションです。システム系学科の先輩たちがWebページのシステム面に注力してきた後を受けて、専攻がデザイン系の私たちは、具体的な顧客像を設定し、それを各販促媒体のデザイン面に活かすことに取り組みました。

具体的な活動は、①Webページの一新、②チラシの作成、そして、③新たなラベルの制作です。どのようなデザインにすれば顧客の興味を喚起し、購入検討に進んでもらえるか、メンバー間でアイデアを出し合いました。そして、色の組み合わせや写真・絵の配置などの工夫を重ねていきました。短期間の取り組みでしたが、全員の協力で、目標に近い成果物が出来たと思います。

この活動を通じて、デザインはもちろん、マーケティングやチーム・マネジメントなど様々なことを学びました。それを来年度に活かせるように整理し、また、就職活動にも繋げていきます。



<福祉医療：卒業研究・ケアスタディー発表会>

○発表会御参加講師(順不同)

- ・本学教育課程編成委員 第一ひかり幼稚園園長 杉山 彰子 先生
- ・本学顧問・教育課程編成委員 静岡県ボランティア協会理事長 神田 均 先生
- ・非常勤講師 大川 美佐子 先生

○発表テーマと学生メンバー

- (1)『視覚障害と点字』～私たちにできること～
伊藤 愛、大上 千尋、野村 祐衣、松本 れいら、山梨 朱音
(医療情報秘書科2年)
- (2)『子ども食堂』
天野 美穂、富田 理沙子(子ども心理学科3年)
- (3)『伝えられる嬉しさ』
～伝えたいのに伝えられないAさんとの関わり～
藤岡 優(介護福祉学科2年 ケアスタディー発表)
- (4)『動機づけが引き出す力』
～ゲームが好きなKさんと出会って～
岩本 光司(総合福祉学科2年 ケアスタディー発表)
- (5)『ともに生きる』～補助犬の一生と課題～
小澤 伎、神田 泰志、藤原 愛、望月 映見
(総合福祉学科3年 卒業研究発表)

○ご出席頂いた講師の方々からの講評[一部抜粋]

- ・発表態度も立派だったし、内容も大変充実していた。皆大きく成長され、感動した。
- ・学科の特徴を活かした創意工夫が見られた。
- ・毎年、参加させていただいているが、こちらが勉強させていただくことが多い。
- ・卒業研究は、時代を反映した新しいテーマばかりであり、いつも感心している。
- ・ケアスタディー発表は、2年間学んだものが凝縮されており、今後の大きな財産になる。
- ・各種地域活動は、まさに生きた経験。今後も多方面での活躍が期待される。
- ・プレゼンテーションのレベルが年々上がっている。作成した発表資料等、就職してからも役立つものだ。素晴らしい活動をされていることがわかった。